

覚えメモ

| | | |
|--------|---|--|
| 日時 | 2020.4.7. (火) 14:00~15:00 | |
| 場所 | 前川建築設計事務所 2階会議室 | |
| 出席者 | 東京海上日動火災保険(東)：理事コーポレート運用部長；藤本 不動産グループ担当課長；井上 三菱地所設計(三)：建築設計一部ユニットリーダー 永田 アーキテクト 東海林 前川(前)：橋本 メモ作成：橋本 | |
| 議題 | 既存東京海上日動ビルの解体撤去に係る報告と挨拶 | |
| 次第 | <p>三 2014年11月三菱地所株式会社は、銀行会館、東京銀行協会ビル、みずほ銀行前本店ビルのある千代田区丸の内1丁目地域を3社共同事業の「(仮称)丸の内1-3計画」とし、一体的に建て替えることを合意。</p> <p>これは大手町・丸の内・有楽町地区まちづくりガイドラインに基づく金融・情報軸地区再整備として国際金融拠点の強化と日本経済を牽引するまちづくりによる。</p> <p>これにより2016年度下期に既存建物の解体工事に着手。</p> |  |
| 東 | <p>この「丸の内1-3計画」地区と隣り合う東京海上日動ビルも連携して、既存ビルを解体、再整備する。既に2019年度構想期間を経て、新本社ビル設計に着手。設計はレンゾ・ピアノ+三菱地所設計 規模：地上21階地下3階、高さ100m、低層階ホール・店舗等パブリックスペース、上層階オフィス。 ～2021年度設計、2022年度上期既存解体工事着手、2023年度上期新築工事、2026年度竣工。 7月頃建替えの発表プレスリリース予定 本日は、プレスリリース前に現存建物設計者の前川國男先生を後継する前川事務所に報告すべきと考え来所。</p> | |
| 前 | <ul style="list-style-type: none"> ・来所しての説明ありがとうございます。 ・ご承知のように東京海上日動ビルは、日本で初めてのチューブ構造を採用し、また日本最初の超高層ビルとして注目されたが、1965年設計開始以来1974年2月竣工に至る間、美観論争に知られる超高層幕開け時代の都市景観や行政にまつわる様々な課題を抱え、高さの縮小や工事の遅れの為1968年竣工の霞が関ビルに日本最初の超高層ビルを譲るなど、当時の発注者東京海上火災と設計者前川國男は共に厳しい状況に対して決断と解決の道を共有してきた重い経緯がある。 ・前川にとって、それは単に一つの超高層ビルを設計するということ以上に、それまで歩んできた建築と都市の在るべき姿、さらには社会における建築家職能への在り様を煩悶し推敲するプロセスであった。 ・一方、前川は結果的には30階127mを25階100mに抑えた竣工した東京海上ビルに、将来の高層化を予兆して上部に増築が可能ないように30階建ての構造的配慮を残していた。 ・また、丸の内地区の都市景観においてツインタワーで構成することを考えていた前川は、本館の隣の新館が三菱地所設計による設計と決まった時、自らの考えを東京海上側に伝え、かなわぬと知った時当時三菱地所設計にいた私の友人を介して、設計担当者を自宅に招き、自らの考えを熱く語るほどであった。 ・前川國男にとって東京海上ビルは、その建築家生涯におけるいろいろな意味でのマイルストーンであり、また我が国の都市計画・景観形成における忘れてはならない歴史的レガシーと言える。 ・したがって解体は非常に残念な思い。せめて前川が東京海上ビルに込めた思いが何であったか、後世に伝える記録・アーカイブの作成を願ってやまない。事務所に残る様々な記事資料の活用・提供には協力する。 | |
| 東 前 | <p>前川事務所の思いは承った。本日の話の内容は、プレスリリース前なのでここだけの話と留めおいて欲しい。承知した。</p> | |

以上